

救いを求める祈り：神を自分の前に置くこと

頭書には「ジフ人が来て、サウルに『ダビデはわたしのもとに隠れている』と密告した時の詩であると記されているが、サムエル記上23章に関連の記事がある。「伴奏付き」は元来「琴」を意味するヘブライ語で弦楽器一般であり、弦楽器の伴奏でこの詩が神殿礼拝で歌われたのであろう。マスキールは「教訓」あるいは「黙想」。たぶん「黙想」として救いを求める祈りの歌である。

サムエル記23章によれば、城塞都市ケイラを略奪したペリシテ人をダビデは追い出したが、ケイラ（アドラムの少し南）の住民がダビデをサウルに引き渡す恐れがあったので、ジフ荒野をさ迷った。ここではジフは地名である（ケイラの南方イドマヤ）。ジフの人々はダビデがホレシュにいることをサウルに通報・密告したと言う。（23:19）一定の名声と家の子郎党を引き連れるダビデではあったが、サウルの手から逃げ惑うダビデでもあった。サムエル記を読むとダビデはその行動の最初に神に託宣を求めたことが分かる。余り関心できない人でもあるが、神への信仰はあったのだろう。

1. 救いを求める神への祈り（3～4）

困難に直面して詩人は神に向かって嘆願し、祈る。「神よ、御名によってわたしを救い/力強い御業によって、わたしを裁いてください。神よ、わたしの祈りを聞き、この口にのぼる願いに耳を傾けて下さい。」「救ってください」、「裁いてください」、「聞いてください」、「耳を傾けてください」という力強い動詞の命令形の表現が印象に残る。詩人は何よりも神に頼る。

「あなたの名によって」、「あなたの力によって」→唯一神信仰のゆえに、直接神ではなく、神の「御名」、「御業」による介入を求める。「御名」は神の本質と人格性を示しており、神が本質的に人との関係の神であることを示している。「御名」「御業」がやがて神ご自身から独立した位格をもつようになる。三位一体の信仰の芽生えである。

2. 具体的な敵対者を祈りの中で神に訴える（5）

「異邦の民」：ジフの人々はイドマヤ地方に住む外国人、他国人であった。「暴虐な者」（抑圧する者）と呼ばれているが、生活様式が異なり、彼らがどのように暴虐な者であったかどうかは分からない。彼らはこの詩人の命＝魂（napši）を追い求め、狙っている。

「彼らは自分の前に神を置こうとしないのです。」黙想の中心をこの言葉に置こう。自分の前に神を置くこと、神の前に自分を置くこと、神と他者と自分の間に、自分と他者の間に置くことの大切さを黙想しよう。神の裁きを侮ることが人を暴虐へと導き、当座はそれが上手く行くように見えても、神の裁きがその身に降りかかってくることを忘れないようにしよう。自分で計ったその秤で測り返される。マタイ7:1-2参照。

3. 見よ、神は行動してくださる（6～7a）

信仰者の祈り、願いに神は行動してくださる。「神はわたしを助けてくださる。主はわたしの魂を支えてくださる。」しかし、ヘブライ語原文は動詞ではなく、力強い名詞が用いられている。見よ、神は

「わたしの助け主 ('ōzēr)」、「わたしの主人」(lî 'ādōnāy)、わたしの魂を支える者たちと共に。) わたしを陥れようとする者に災いを報いてくださる。」(彼は私に敵対する者たちの悪に報いるであろう。自分が復讐の手を下すのではない。神の裁きが敵対者には滅びの宣告となり、信仰者には解放の音信となるのである。

4. 懇願(7b)

「あなたのまことに従って彼らを絶やしてください(hasmîêm, Hiphil imperf)」。単なる復讐ではなく、あくまで神の「まこと」、神の真実に従って神が行動することによって、その結果彼らが切り取られるようにという願いである。

5. 感謝・賛美の応答 (8 節)

「(なぜなら) 主は苦難から常に救い出してくださいます」(9 節 主 (Yahaweh) はわたしをあらゆる困難から救って下さったから) 完了形の動詞が用いられている。その救いの事実に対して、「自ら進んで、義務・強制ではなく自由に、(あなたに) いけにえを捧げ、恵み深いあなたのみ名に感謝します。」(ヘブライ語原文は、あなたのみ名を賛美します 'ōwdeh šimkā, ヤーウエよ、なぜならそれは良いことだからです。あなたの良きみ名を賛美します。) 応答は犠牲・供え物を捧げることと賛美を捧げることによってなされる。

6. 結語：わたしの目は敵の上に (その望むことを) 見た

信仰者の目は彼に、つまり、敵対する者らの上に、(その望みが成就したのを) 見た。これも完了形で、報復を、あるいは神の義とあわれみの貫徹を確かに見た！というのである。

この詩もエルサレム中心の支配を求めるもとであり、シオン神学である。どこか報復を求めるというイスラエル宗教の限界があるのではないだろうか。私たちは、イエス・キリストの到来を待たねばならない。